



2019

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)

年次報告書

Japan Initiative for Youth Development
Annual Report 2019



 特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒108-0074 東京都港区高輪4-10-63-302
TEL: 03-3440-3373 FAX: 03-3440-4447
E-mail: info@jiyd.org URL: <http://www.jiyd.org>

発行者 馬淵 英晃
発行所 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
発行日 2020年6月1日



理事長あいさつ



理事長
野村 彰男
2020年5月吉日

2019年末に中国・武漢から始まった新型コロナウイルス感染の猛威は、たちまち世界中を包み込み、その影響は欧米や中国をはじめ世界の経済発展を後戻りさせ、国際社会の姿を将来にわたってどのように変えることになるかが心配され、コロナ禍の前後で歴史を分ける見方すら出ています。

日本も企業の生産活動や人々の日々の交流、家庭での当たり前の家族関係や幼稚園から小中高校、大学にいたる大事な教育活動を長期間停止させる事態となりました。このような「非常時」にあたって、いつも一番大きなしわ寄せを受けるのが子どもをはじめ社会の弱い立場にある人々であり、国でいえば格差や貧困にあえぐ途上国であるということ、決して忘れてはならないと思います。

私たち青少年育成支援フォーラム(JIYD)は、全国のライオンズクラブ、教育関係者の皆様とともに、幼児から思春期にいたる子どもたちの人間力を育む「ライフスキル教育」の普及を目指して活動してまいりました。「学校に行きたい」「友達に会いたい」といった声は何か月にわたり地域にあふれた今のような時こそ、「ひとりの人間として積極的に生きる」「みんなと共に学び、共に成長する」ことを促してきた私たちの活動の経験や蓄積、各種の教材を活かして、この間の学校生活の中断で生まれたはずみや心の空白を補うことはできないだろうか、という思いを強くします。

2019年度のJIYDの活動報告が出来上がりましたので、皆様にお届けいたします。活動の全体像については本文をお読みいただきたいと思いますが、今回とくに皆様にお伝えしたい地域活動や、JIYDが日本財団と協力して取り組み始めた「子どもの貧困対策」の一環としての「居場所づくり」の活動についてご紹介したいと思います。

その一つは、20年前、JIYDと協力して日本での「ライオンズクエスト」普及活動を最初に始めたライオンズクラブ330複合地区で、しばらく休止していた活動が新たな一歩を踏み出した、といううれしいご報告です。330-A地区ライオンズクエスト小林伸光委

員長は、2018年秋、全国の説明員が集まって開催された研修会や、2019年2月に福岡で開かれた第3回ライオンズクエストフォーラム全国大会で、参加者たちが活動に抱く熱

い思いに触れたことが、改めてライフスキル教育の実践に踏み出すエネルギーになったことを明らかにされています。また、330複合地区ガバナー協議会の中山道則ライオンズクエスト委員は、町田市教育委員会にライフスキル教育の導入を提案し、教師の意識改革を目指してワークショップ開催の機会を得るにいたった活動を報告されています。

もう一つは、沖縄県宮古島市の田場秀樹教育研究所長と宮古ライオンズクラブの新山広明さんによる、宮古島市全域に「ライフスキル教育」を取り入れ、市内の全教員を対象とするワークショップ開催まで進んできた活動のご報告です。市の教育委員会から宮古ライオンズクラブへの委託事業として年2回のワークショップを5か年計画で実施している取り組みは、他の地域にとっても大いに参考になり、刺激ともなる活動ではないかと思えます。

加えて今回は、JIYDが子どもの貧困対策の一環として日本財団と提携して活動を広げている「子どもの居場所」作りへの取り組みについて、JIYDの理事・認定講師である北山先生にご報告いただいております。この活動は「学校外へのライフスキル教育の導入」の実践でもあり、担当する自治体で居場所の指導者を支援するためJIYDが開発した、見て分かる、使い易い「ライフスキル学習資料集」をどう活用するか、大事なポイントは何かのレポートです。

私たちは今後も全国のライオンズクラブの皆様や教育関係者、ご支援くださる皆様と共に、コロナ禍を乗り越えた先に子どもたちにとっての明るい未来が開けるような活動を展開したいと考えております。皆様のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

家族との絆

自分や
他者に対する
敬意

親切

子どもたちに

ボランティア

豊かな心と社会を生き抜く力を

健康的な
ライフ
スタイル

身につけてほしい9つの価値観

自己規律

責任感

勇気

正直

9つの価値観を育む「ライフスキル教育」を子どもたちに届けよう
私たちは「Lions Quest ライフスキル教育プログラム」の普及活動に取り組んでいます

FOCUS 2015~ (今、注力すること)

プログラムの継続的な実施を促進するために

- ① 多様な教育現場に
対応する運営方法づくり
教育現場のニーズや社会の実情にあわせ、ワークショップやフォローアップのさまざまな開催方法を提案する
- ② 実践者や協力者の
ネットワーク構築
プログラムの実践者や支援者が情報共有・意見交換する場を拡大する
- ③ 普及活動の継続・拡大に
有効な情報公開や広報活動
普及展開の例示や実践事例などの広報ツールを定期的に提供する

*1999年にライオンズクエストプログラムを日本に導入して以来、普及活動の基盤整備・全国拡大を経て、2010年以降は「深化」を大きなテーマとしてきました。2014年度までのFOCUS(注力すること)として、授業実施率の向上、評価事業、教材開発の3点を掲げてきました。評価事業では、2010年から3年間をかけ、実践校でのプログラムの効果を測るプログラム評価が終了し、教材開発では、それまでの「思春期版」に加えて2013年7月には「小学生版」、2017年7月には「幼稚園/保育所(園)版」を開発・導入しました。そして2019年7月から、2015年にアメリカで導入された新しいライオンズクエストプログラムの日本語版を開発し電子版教材として導入しました。

沖縄県宮古島市の取り組み

🌐 ライフスキル教育を地域の教育の基礎に!

沖縄県宮古島市では、市全域の教育に「ライフスキル教育」を取り入れる取り組みを始めています。また、地元地域で様々な奉仕活動に取り組んでいるライオンズクラブが重要なプレーヤーを担っています。地域の教育力をパワーアップするために、市教育委員会とライオンズクラブのパートナーシップのもと、市内の全教員600名を対象とするライオンズクエストのワークショップ(研修会)開催が進められています。

教育行政とライオンズクラブのそれぞれの立場で関わっておられるお二方から、取り組みを始めた経緯や現在の取り組みのポイント、今後の展望などについてお聞きしました。

生徒の自主性・自己肯定感を育む為に、全体で教師力アップ

私は小学校教頭から行政職を経て宮古島市立鏡原中学校に2008年4月、校長として着任しました。本校では思春期真っ只中の生徒、特に3年生は「部活をやられている」「勉強をやられている」「学校に行かされている」「何もかも親や先生にやられている」のではないかと訴えていました。普通の授業や会話の中でもそうした態度が見えました。「どうしたらその学校の雰囲気を変えられるか」「何事にも積極的に参加させたい」「自ら進んで学ぶ雰囲気をつくりたい」等、日々の対応に追われながらも悩み続けてきました。



宮古島市立教育研究所 所長 田場 秀樹

そのような悩みの中、その年の11月に浦添市立港川中学校が「ライオンズクエストライフスキル教育プログラム」に取り組んでいるという情報を得て、港川中学校の視察へ宮古ライオンズクラブのメンバーと出かけました。2009年2月にワークショップの開催に向けて宮古ライオンズクラブと協議を進めました。そして、隣接する鏡原小学校と池間中学校、西城中学校職員の参加同意を得て3月の3連休のうち2日間、WS受講費は全額個人負担で開催することができました。

本校では2009年度(平成21年度)の教育課程にライフスキル教育を位置付けた計画を作成し、全校体制で取り組みをスタートしました。ライフスキルの授業は3人体制で教室に入る事としたことで、3人の教師が役割分担のための話し合いをする様子や共同体制で授業に臨む校内の体制・取り組みが見えてきました。生徒に向き合う姿勢、生徒間での話し合う姿など学校の雰囲気に変化が見られ、授業中の態度、部活動への参加、学校行事や対外大会練習等へ参加する姿勢が積極的になってきまし



た。保護者向けのセミナーに参加した保護者からは「これを参考に子どもと話をしたい」「参加して良かった」等の声が聞こえました。

その後も、ワークショップは平良中、久松中、南小で開催されました。しかし、学校全体での取り組みまでには至らず個々の教師の取り組みになっていました。そこで現在は、宮古島市全体での取り組みになるように宮古島市教育委員会から宮古ライオンズクラブへの委託事業として年に2回開催し、これまで4回の開催で5校の小中学校の職員が受講しています。この取り組みは5ヵ年計画として2年目を終え、後3ヵ年で小中学校の全職員が受講できるように進捗中です。

市の予算化にあたって「教師力アップ、ライオンズクエストワークショップ」という名目を掲げました。この中で先生方の指導のベクトルも明確にしなければなりません。また、ライオンズクエストの導入意図は「子どもたちに自己肯定感を身につけさせたい」という点にあります。自己肯定感が土台となってより良い集団づくりが可能になり、学力向上に繋がります。肯定感が身についたかどうかは、全国学力状況調査での、「自分は良いところがあるか」という質問回答の数値によって、成果を確認したいと思っています。

ワークショップ受講者の感想

2日目の内容がアクティブラーニングであったが、教師である私たちがアクティブラーニングをしていったと感じる内容であった。普段職員室で話している内容を文字に表したり、グループ分けをししたりした事で、改めてライフスキルの重要性を感じました。(30代・小学校教諭)

グループをかえ、役割をかえてワークショップをする中で、色々な考えに触れることができ、多くの先生方と親しく話すことができました。他の研修にはない、笑いながらテーマから広がって、学校、学級の実態等を話す機会があったこと、本当に参加して良かったと思いました。(50代・小学校教諭)

これまでの知識や実践を新たに確認し、分かりやすく簡潔にまとめていただきました。ライオンズクエストの存在は知っていましたが、これほど分かりやすく実践的で倫理的な研修会とは驚きでした。(40代・中学校教諭)

これからのより良い社会の担い手を育てていく使命を担う



宮古ライオンズクラブ 新山 広明

宮古ライオンズクラブでは、青少年健全育成活動として、①絵画コンクール、②新春親子凧揚げ大会、③少年野球大会、④ヘアードネーション推進、そして⑤ライオンズクエスト(LQ)を行っています。各事業を通して、学校や地域との交流を図っており、地域に密着した組織として活動しています。

私がライオンズクラブに入会した動機の一つにも、このような充実した青少年健全育成活動がありましたが、中でも、ライフスキル教育を学校の先生方に普及するLQ事業は、自身のライフワークとして取り組んでいきたい奉仕活動の大きな柱でした。

10年前に始まった宮古島市のLQ事業は、宮古島市立教育研究所の田場先生のご尽力により、現在では市の予算も活用して5ヵ年計画で島内小中学校全教員がワークショップ(WS)を受講する3年目に入っています。私自身も、新規に県立

高校と私立幼稚園でのWS開催を実現し、幼小中高全ての学年をカバーするに至っています。今後は経済的に困難な子どもたちが主に利用する「子どもの居場所」スタッフ向けのWS開催も提案していきたいと考えています。

WSの様子やアンケートから、参加された先生方の意識の変化は読み取れます。一方で、実際の教育現場でどこまでLQが活かされているのかは、あまり把握できておらず、ライオンズとしては「やりっぱなし」になっていないかと反省させられる部分もあります。

そこで、子育て世代会員のWS参加を促し、WS終了後も先生方とのつながりを持ち続けるよう心掛けています。また、幼稚園でのWSには保護者にも参加を呼びかけ、園と保護者の協力体制や家庭でのライフスキル教育の推進を促しました。

しかし、ライオンズとして、もっと主体的にライフスキル教育に関わることはできないか。教育は本来、学校や保護者のみに任せるものではなく、特にライフスキル教育は地域社会の中で、地域の大人が様々な活動を通して実践していくべきものではないか。そこで着目したのが「レオクラブ」。宮古ライオンズクラブでは、WSに参加した若手ライオンを中心に、この3月、国際協会の承認を得て「レオクラブ宮古島」を正式に結成しました。ライオンズの奉仕活動やSDGsに基づいた学習を通して、ライフスキルを実践的に身につけてもらうことを目指しています。

地域の大人として、自身が歩んできた道のり、乗り越えてきた困難、今この時代に起きている世界のリアルを子どもたちと共有すること。そして、これからのより良い社会の担い手である「未来のライオン」を育てていく使命を、我々は担っています。





日本でのLions Questプログラムの普及活動は、1999-2000年度に東京・神奈川・埼玉・山梨を含むライオンズクラブ国際協会330複合地区で始まりました。330複合地区は日本へLions Questを導入するパイロット地区として、JIYDと協同して、教材開発、講師養成、ワークショップ開催、パイロット実践校開発といった普及活動の基盤を整備する事業を実施されました。

2005年からは、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会(JJCC)よりのご支援も得ながら、東京都内で数多くのワークショップを開催し、ワークショップがまだ開催されていない全国各地の学校関係者やライオンズクラブメンバーが参加し、地元地域へ持ち帰る機会を提供しました。今日、普及活動が全国的に広がっているのも、東京(330-A地区)をはじめとする330複合地区内での普及活動があったからこそでした。

その後、2011-2012年度以降、東京ではライオンズクラブによる普及活動が休止していましたが、2018-2019年度に入り、普及活動が再開されました。地区内のライオンズクラブメンバーの理解と普及活動への参加を促すための説明会の開催、学校関係者に

紹介する広報活動、学校教員等を対象とするワークショップの開催(2019年4月・江戸川区、2019年8月・町田市教育委員会教員研修)など、活発な普及活動が展開されています。

そこで、本記事では、330-A地区内で精力的に普及活動に取り組まれているライオンズクラブメンバーのお二方に、普及活動に取り組む動機や活動に取り組む中で感じたこと、今後の展望についてお聞きしました。



今こそ子どもたちに「生きる力」を

私たちの330-A地区では、ライオンズクエストの普及活動が7年以上にわたり行われていません



ライオンズクラブ国際協会
330-A地区
青少年健全育成・
レオ・ライオンズクエスト
委員長 小林 伸光

でした。私も青少年育成委員長として「いじめ防止教室」を主な活動として進めていたのが現状でした。大きな転換点は、2018年秋に全国の説明員が集まって開催された研修会でした。皆さんのクエストに対するご理解の深さと情熱に驚嘆した一日でした。さらに2019年2月に開催された福岡での第3回ライオンズクエストフォーラム全国大会では、主催の337地区の底力もさることながら、520名に及ぶライオンズクラブメンバー並びに教育関係者の皆さんの熱い思いがひしひしと伝わってきました。日本各地でライオンズクエストの多彩な取り組みがされ、愛情をもって展開されているのが本当によくわかりました。

現代社会においては、核家族化・近所づきあいはじめとした地域社会との繋がりの希薄化が子どもたちのライフスキルを身につける機会を激減させています。今こそ子どもたちにライオンズクエストを通じて「生きる力」を身につけることが必要となっており、と確信しています。

私たちの地区では、新たな一歩を踏み出したばかりですが、着実に広がりを感じます。今後は説明員の資格取得者を委員会内に増やし、また、メンバーの認知度を高めるべく、セミナーの開催・例会訪問によりクエストのPRをしていきたいと考えます。ライオンズクエストフォーラム全国大会で識名議長より頂きましたお言葉に「愛の反対は無関心!我々は無関心であってはいけない。地域に戻って実践してほしい」とありましたように、自分たちのまわりから子どもたちの学びを支援すべく活動して参ります。

ワークショップ受講者の感想

(ワークショップアンケートより抜粋)

参加者主体の活動であったため、楽しく研修を受けることができました。授業も同じことだが、能動的に活動することで学びを実感できると感じました。多くの人の考えを聞き、自分では考えつかなかったものがたくさんありました。自分も学校現場で実践していきたいと思えます。

それぞれの活動には意味が様々あることを理解しました。学校で実践するには、活動の意図や児童にどのような力が身に付いてほしいのかを明確にして行いたいです。

若手教師に未来を託すことを誇りに

330複合地区におけるライオンズクエスト導入は、まずは目標である準



ライオンズクラブ国際協会330複合
地区ガバナー協議会
青少年・レオ・ライオンズクエスト委員
東京町田クレインライオンズクラブ
ライオンズクエストプログラム説明員
中山 道則

地区への委員会創設に向けて、長年にわたり教育現場を推察し討議を重ねながら、330複合地区・C地区・青少年育成支援フォーラム(JIYD)の協力のもとに始まりました。

その後A地区ライオンズクエスト委員会と連携しながら、町田市教育委員会にライフスキル教育の導入を提案しました。社会問題になっている「いじめ問題」について、学校・学級経営・教師の指導体制に不備がないか、子どもたちや保護者のニーズをもとに、現実を直視し、教師の意識改革をすることが不可決であるとお伝えし、ご検討頂いた結果、ワークショップ開催の機会を得たのです。

2019年8月19日にワークショップ基本編が開催され、118名(小学校グループ78名・中学校グループ40名)が参加しました。参加した若手教師の学びに対する意欲的な態度・希望にあふれた真剣な眼差しに新鮮な意気込みを感じるとともに、学校生活をより活性化させ明るく楽しい教室に変わることを信じ、未来を拓くことを誇りに思いました。これは今回のライオンズクエスト導入に導いていただいた先駆者の方々、歴代ガバナーのご尽力のお陰であり、謝意を表するものです。

今後は、若手教師がこれからの次世代を担う子どもたちへ、実り多い人生の基礎となるライフスキル教育が喜びを与えていくことを強く感じました。教師がワークショップに参加し、ライフスキル教育をベースとした教育を実践するためのフォローアップに協力するべく、①各学校にセミナー開催を依頼、②参観日に保護者と交流、③校長会への出席、④学校全教師にライフスキル研修会開催の依頼、等を進めていきたいと思えます。

安全で安心な学級を築くために、まず教師自身がどのような学校にしていきたいか、そのためにどのような取り組みが必要なのか考え、実践していくことが大切であると学びました。また、自分自身が学校の子どものような能力を身に付けさせたいか、目標を持ち指導にあたるのが大切だと考えました。

ワークショップは我々が主体的に考え行動することで作られていくように感じました。ライフスキルは名前の通り、人が生きていく上で必要な技能であると思います。生きていくことで自然と身に付くものであるかもしれないが、一度立ち止まって理論を学ぶことはとても意義のあるものでした。

学校外への「ライフスキル教育」の導入①

さまざまな場で使えるライフスキル学習資料集の開発

もっと気軽に、もっと楽しくライフスキルを学んだり使ったりしてほしい。そんな願いをかなえる一冊をつくりました。こうだったらいいのにな、こんなところを伸ばしたいな、と思っていることを実現するきっかけになると思います。また、ちょっとした活動の積み重ねが、「ひとりで生きる力」・「みんなと生きる力」になると感じています。この資料を作るに至った経緯と、資料への思いを認定講師・北山先生にうかがいました。

ライオンズクエスト認定講師 北山 敏和

ソフトスキル/ライフスキルをもっと多くの人に

人生にとって大事な能力のうち、学校の成績のような数値で表すことができる能力を「ハードスキル」、数値で表すことができない能力を「ソフトスキル/ライフスキル」と言います。学校にいる間は「ハードスキル」が目立ちますが、社会に出ると、「ソフトスキル」の方がはるかに求められる割合が高くなります。自分らしさを大切に、多くの人と関わり、自分の力を発揮するためには、“学校の成績”だけでは、どうにもならないからです。だから、ソフトスキル/ライフスキルは、特別な人、限られた人が学べるのではなく、老若男女を問わず、だれでも気軽に、楽しく学べるのが理想です。

みんなにとって使いやすいもの

これまで、私たちは学校で子どもたちにライフスキルを教えられるよう、主として先生方を対象に教材を準備し、ワークショップを開いてきました。参加してくれた先生方には喜んでいただき、ライフスキルの授業を、系統的に受けられる子どもたちもずいぶん増えてきたと思います。でも、時々、普及活動をしてくれるライオンズクラブメンバーや、先生以外の参加者から、こんな声を聞きます。

「うちの社員にもライフスキルを学んでほしいのだけど、それに使えるようなものはないの?」

「ボランティアで、子どもたちの野外活動の指導をしているときに、使えるネタはないですか?」

「うちの子どもを見ていて、心配なことがいっぱい。親が家庭で教えられるようなものがほしいのですが。」

そして、学校の先生からも、「私は特別支援学級を担当しているので、ライオンズクエストの指導案は長すぎます。もう少し、短い時間で、楽しく指導できるものを作ってください。」

日本財団とのコラボレーションから



こんな時、子どもの貧困対策として、全国で100カ所の“第三の居場所”の開設を計画している日本財団から、夕食を提供すること、宿題をみることに以外に、子どもたちが本当の意味で自立できるよう、居場所で非認知能力(ソフトスキル/ライフスキル)を教えたいのだから…という問い合わせがありました。そして、話がトントン拍子に進み、居場所の指導者の支援と、子どもたちへの非認知能力の指導に全面的に協力することになったのです。

私たちが、すでに開設されている居場所を訪ねて最初にしたことは、居場所の指導者と課題を共有

することでした。通所してくる子どもたちを見て気がかりなこと、また指導者として、自分自身にもっと付けたい力をテーマに話し合い、明らかになったことは、ソフトスキル/ライフスキルの重要性です。まさに、日本財団の判断が、的を得ていたことを証明することになりました。

見てわかる資料集

では、ソフトスキル/ライフスキルの指導ノウハウを提供する側として、具体的に何ができるかという話の中から出てきたのが、読んで分かる資料集ではなく、見て分かる資料集の作成です。この発想のベースになったのは、もちろん、ずっと応えられていなかったライオンズメンバーや先生以外の参加者からの声です。授業としてではなく、ちょっとした時間に、少人数でも楽しく学べるスキルの教え方…、そのイメージが明確になりました



ひとりで生きる力とみんなと生きる力

資料集のタイトルを『ライフスキルで育てる ひとりで生きる力! みんなと生きる力!』と名付けました。1つのテーマは見開き2ページで、たくさんのイラストを入れ、文字をできるだけ少なくしています。手軽に使えるようA4よりひと回り小さいB5サイズで、1巻に10のテーマを収録し、とりあえず3巻まで作る予定です。

お手元に届いたら、イラストを目で追いながら、

さらっと読んでみてください。そして、“自分が学ぶ”つもりで、流れに沿って学習の場を想像してください。指導者も入れて2~3人の少人数から、ちょっとした準備物だけでできるものばかりです。

その後で、子どもたちのようすを思い浮かべてください。「この子には、もっと自分の気持ちを話せる力をつけてあげたい」、「あの子には、友だちに優しい言葉づかいができるようになってほしい」、「子どもたちに、ルールを守った上で、自由に活動してほしい」…。きっとこのような気持ちが湧いてくると思います。各テーマのページには、「笑顔があふれるゲーム」のタイトルで、2~3人から遊べる楽しいゲームも紹介しています。ひょっとしたら、ゲームだけやっても意外な効果があるかもしれません。子どもたちの課題の中には、ひとつひとつ全部取り組まなくても、笑顔があふれる関係になれば、自然に解決するものもあるからです。もちろん、大人を対象にすることも可能です。基本的にワークショップに参加しなくても指導できますが、興味がわいたら、参加するのも楽しいと思います。

第1巻に掲載しているスキル

- ① みんなで考え、みんなで守るルールを作る
- ② よく聞いて適切な行動をする
- ③トラブルを解決する
- ④他の人を理解し、称える
- ⑤相手を尊重して気持ちを伝える
- ⑥「ノー」の気持ちを伝える
- ⑦考えて、相談して、「けっぺい」する
- ⑧考えて、予想して、選ぶ
- ⑨考え方と感情をコントロールする
- ⑩4つのステップで目標を立てる



おわりに

「経済格差と学力格差の克服にはソフトスキル/ライフスキルを学ぶことが効果的だ」という研究報告があります。当たり前のことですが、次の時代を支えるのは今の子どもたち、若者です。この冊子が、さまざまな場所で、ソフトスキル/ライフスキルの学習の一助になれば幸いです。

日本財団「第三の居場所」への協力

公益財団法人日本財団では、子どもの貧困対策として、生活困窮家庭の子どもたちの自立する力を育むための居場所づくりに取り組まれています。日本財団が設置する居場所は「第三の居場所」と呼ばれ、行政や民間支援団体とのパートナーシップにより、全国100カ所への設置が進められています。「第三の居場所」では、主に小学校1年生から3年生を対象に、放課後から夜までの時間、子どもたちが、学習や温かい食事、正しい生活習慣を身に付けるためのサポートを受けながら、友だちと大人のスタッフと一緒に安心・安全に過ごすことができる居場所を提供されています。

青少年育成支援フォーラム(JIYD)では、2017年より、「第三の居場所」へのライフスキル教育の導入に協力しています。居場所に通う子どもが、自分自身や他者との関わりに関するさまざまなスキル(非認知能力/ソフトスキル/ライフスキル)を身に付けながら、自立する力を育むための介入プログラムを導入する取り組みです。これまでに計5カ所の居場所への導入をサポートしました。2020年度は、新たに8カ所への導入をサポートする計画です。



私たちのサポート

居場所へライフスキル教育を導入するために、JIYDはライフスキル教育の専門講師を派遣して、以下のサポートを実施しています。

① ライフスキル教育プログラムを導入するためのスタッフ研修

課題を明らかにする

居場所の子どもたちに伸ばしてほしい力やスタッフ自身が伸ばしたい指導スキルについて、講師がファシリテーターとなり、スタッフの皆さんと話し合い、確認します。

体験・練習する

子どもたちに実施するスキル学習を紹介し、スタッフの皆さんが体験し、実施できるように練習します。

計画を立てる

今後の子どもたちへのスキル学習の実施計画を検討します。

② 居場所のスタッフが子どもたちにスキル学習を実施する際のサポート

練習する

講師の指導のもと、その日に子どもたちに実施するスキル学習をスタッフの皆さんと練習します。

やってみる

スタッフの皆さんと講師と一緒に子どもたちにスキル学習を実施します(チームティーチング)。

振り返る

スキル学習の実施後に、実施を振り返り、次回の実施について検討します。

③ 一定期間の実践後の課題解決・指導スキルアップのためのフォローアップスタッフ研修

振り返る

講師がファシリテーターとなり、一定期間(3カ月や半年間など)の実践を振り返り、実践する上での課題や必要な指導スキルを確認します。

計画を立てる

確認した課題や指導スキルについてのスタッフ研修を行います。

日本財団による子どもの貧困対策の取り組みについては、同財団のホームページをご覧ください。
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty



① 新しいワークショップ形式の導入、開催数は104回

ライオンズクエストプログラムのワークショップは、プログラムの理念や指導方法について、体験的に学習する研修会です。従来の2日間で行うことを標準とした形式を刷新し、2019年7月から1日での開催を基準とした新しい形式を導入しました。

形式名称	日数	内容
基本編	1日	ライオンズクエストプログラムのワークショップに初めて参加する人を対象とした、プログラムを使用して授業を行うために必須の研修
実践編	1日	「基本編」の修了者や従来のワークショップ修了者を対象とした、プログラムの実践をさらに深めるための研修
基本編+実践編	2日	「基本編」と「実践編」を連続して開催する研修(従来の2日間ワークショップと同等の研修)

2019年度のワークショップ開催数は104回、のべ2,411名が参加(修了)しました。これらの多くが、ライオンズクラブのご支援により、県・市区町村の教育委員会・学校と連携して開催されました。

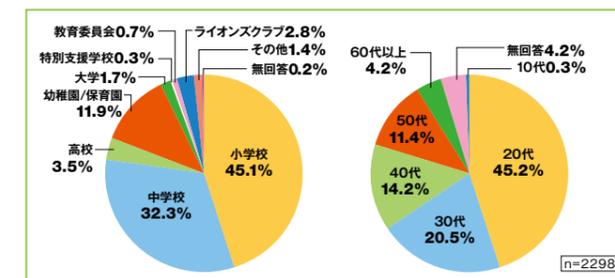
2019年度ワークショップ開催実績

形式	開催数		修了者数	
	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月
1日	7	-	147	-
2日	8	-	186	-
大学授業(※)	1	-	19	-
基本編(1日)	-	34	-	817
基本編+実践編(2日)	-	51	-	1,168
実践編(1日)	-	3	-	74
合計	104		2,411	

(※京都教育大学の「ライフスキル教育」授業)

2019年度ワークショップ修了者

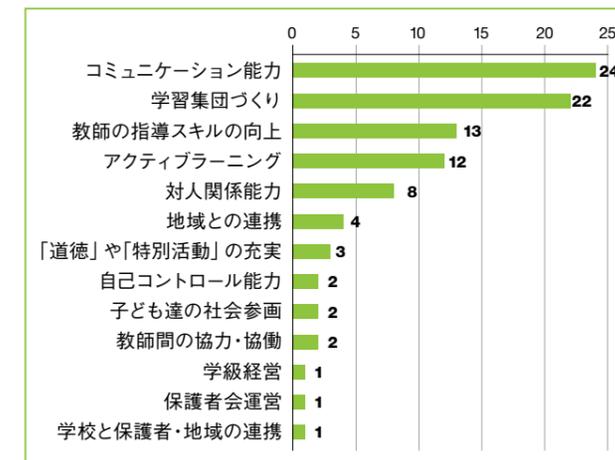
- ▶ 校種別には、小学校教員が45%と最も多く、次いで32%が中学校教員、幼稚園・保育園の教諭や保育士が12%となっています。
- ▶ 年齢別には、若い順に多く、45%が20代、30代は20%、次いで40代は14%となっています。



② 地域・学校の課題・ニーズに合わせた普及活動

多くのワークショップで、開催地の主催者(学校・教育委員会、ライオンズクラブ)から、研修テーマの要望を聞き取り、研修内容に反映することができました。その効果として、ワークショップ終了時の参加者アンケートでは、修了者の大半から「教育現場や日常のニーズに対応するヒントが得られた」との回答を得られました。要望の多かった研修テーマは、「コミュニケーション能力」、「学級(学習)集団づくり」、「教師の指導スキルの向上」などでした。

研修テーマ



(※2019年7-8月(夏期)開催分対象)

③ 電子版新教材の導入

2015年にアメリカで導入された新しいライオンズクエストプログラムの日本語版を開発し、新たに2019年7月から電子版教材として導入しました。

特徴として、未就学児から中学生まで発達段階に合わせた9段階の教材が用意されており、学校・家庭・地域が連携する内容や資料が充実しています。授業案からワークシートまで、さまざまな課題・ニーズに合わせて、アレンジ可能です。また、9段階の学年(巻)を縦断して、系統的に発展する単元構成となっており、各段階の指導書には6単元・36の授業展開が収録されています。

単元名	主な収録スキル・内容
単元1 明るく意欲的な学習集団	集団づくり、ルールづくり、グループ活動
単元2 個人的発達	自信、責任、目標設定、感情のコントロール
単元3 社会的発達	問題解決、友人関係、いじめ
単元4 健康と病気の予防	健康習慣、薬物問題、プレッシャーへの対処
単元5 リーダーシップと奉仕活動	奉仕活動の計画から実行まで
単元6 ふり返りとまとめ	賞賛、ふり返り



電子版教材は順次、ワークショップ受講者向けポータルサイト「LQ-Port」に公開され、利用可能となっています。なお、この電子版新教材の配信システムの開発費用の一部は、公益財団法人日本財団ならびに公益財団法人森村豊明会よりご支援いただいています。

また、新しいワークショップ開催形式と電子版新

教材の導入に合わせて、「ワークショップハンドブック」も2019年7月から改訂しました。



④ 認定講師養成

ワークショップ開催時期の集中化や開催形式の多様化(新しい形式の導入、課題・ニーズに合わせた内容、対象の拡大)などへの対応のため、ライオンズクエスト認定講師の増員を進めています。

講師候補者の公募を開始し、講師候補者選考委員会による応募者の書類選考、面接選考を経て、5名の候補者を選考しました。2019年7月からは、上級認定講師の指導による養成課程を開始しました。養成課程は、全国各地のワークショップ主催者や参加者皆様のご協力をいただき、実際のワークショップ開催の機会を利用して実施されています。5名の候補者は、それぞれ北海道・茨城県・東京都・大阪府・福岡県と全国様々な地域から集まっており、その職業や所属もライオンズクラブメンバー・大学教員・小学校校長・小学校教頭・元中学校校長とバラエティに富んでいます。

なお、今回の認定講師養成には、公益財団法人日本財団より費用の一部をご支援いただいています。

⑤ ライオンズクエスト説明員は全国に81名

ライオンズクエスト説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった方です。

地域の学校や教育委員会を訪問して説明やセミナーを開催したり、ライオンズクラブの例会や会合でプログラムを紹介する活動をしています。2019年は14名の説明員を養成しました。

貸借対照表 2019年12月31日現在

科目	当期分	前期分	差異
〈I資産の部〉			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	912,609	1,454,526	△ 541,917
立替資金口 ※1	26,312,863	24,378,367	1,934,496
貯蔵品	6,305,722	4,909,250	1,396,472
前払費用	1,263,614	855,719	407,895
未収入金	17,311,337	23,111,250	△ 5,799,913
流動資産合計	52,106,145	54,709,112	△ 2,602,967
【固定資産】			
什器備品	3	3	0
ソフトウェア ※2	7,354,152	0	7,354,152
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金 ※3	10,000,000	17,000,000	△ 7,000,000
固定資産合計	17,654,155	17,300,003	354,152
資産の部 合計	69,760,300	72,009,115	△ 2,248,815
〈II負債の部〉			
【流動負債】			
未払金	2,087,201	1,734,612	352,589
前受助成金 ※4	4,732,000	1,162,409	3,569,591
預り金	262,256	141,815	120,441
未払消費税	97,200	332,600	△ 235,400
流動負債合計	7,178,657	3,371,436	3,807,221
〈III正味財産の部〉			
前期繰越正味財産額	68,637,679	72,083,461	△ 3,445,782
当期正味財産増減額	△ 6,056,036	△ 3,445,782	△ 2,610,254
正味財産の部 合計	62,581,643	68,637,679	△ 6,056,036
負債及び正味財産の部 合計	69,760,300	72,009,115	△ 2,248,815

※1. ライフスキル事業の運転資金です。
 ※2. ワークショップ受講者向けポータルサイト・電子版教材配信システムです。
 ※3. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予想される不随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。
 ※4. 公益財団法人日本財団、公益財団法人森村豊明会からの助成金のうち、未使用助成金です。

2019年度決算報告 ②

活動計算書 (2019年1月1日から 2019年12月31日まで)

(単位:円)

科目	当期分	前期分	差異
Ⅰ経常収益			
【受取会費】			
正会員受取会費	200,000	300,000	△ 100,000
受取会費計	200,000	300,000	△ 100,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金	0	95,000	△ 95,000
一般寄付金	20,000	70,000	△ 50,000
受取寄付金計	20,000	165,000	△ 145,000
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】			
ライオンズクラブ国際財団 ※1	40,652,954	45,731,084	△ 5,078,130
日本財団	1,648,000	0	1,648,000
その他	3,054,901	2,392,713	662,188
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	45,355,855	48,123,797	△ 2,767,942
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	4,582,000	8,858,000	△ 4,276,000
日本財団	538,045	3,474,138	△ 2,936,093
その他:体験会謝礼等	1,885,992	1,600,564	285,428
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	7,006,037	13,932,702	△ 6,926,665
【その他収益】			
受取利息	1,407	1,034	373
雑収入			
ワークショップキャンセル料	36,000	85,000	△ 49,000
書籍売上	105,300	280,800	△ 175,500
その他	0	1,500	△ 1,500
その他収益計	142,707	368,334	△ 224,127
経常収益計	52,724,599	62,889,833	△ 10,163,734
Ⅱ経常費用			
【事業費】			
(1)人件費			
給料手当	11,720,600	11,458,131	262,469
法定福利費	1,192,492	1,238,285	△ 45,793
通勤費	472,921	497,562	△ 24,641
人件費計	13,386,013	13,193,978	192,035
(2)その他経費			
謝金 ※2	11,881,614	14,149,483	△ 2,267,869
通信費	1,170,222	429,158	741,064
荷造運賃	1,327,109	1,894,016	△ 566,907
旅費交通費	8,917,818	8,609,072	308,746
消耗品費	324,097	405,807	△ 81,710
会場費	506,443	330,196	176,247
家賃	1,304,000	1,296,000	8,000
リース料	419,077	411,072	8,005
支払手数料	696,821	162,542	534,279

科目	当期分	前期分	差異
印刷費 ※3	5,084,136	14,550,074	△ 9,465,938
減価償却費	817,128	0	817,128
ライセンス料 ※4	1,493,370	1,513,945	△ 20,575
外注費	2,990,845	367,712	2,623,133
その他 ※5	290,452	373,853	△ 83,401
その他経費計	37,223,132	44,492,930	△ 7,269,798
事業費計	50,609,145	57,686,908	△ 7,077,763
【管理費】			
(1)人件費			
給料手当	3,526,556	3,470,556	56,000
法定福利費	1,125,918	1,128,802	△ 2,884
通勤費	245,335	232,830	12,505
人件費計	4,897,809	4,832,188	65,621
(2)その他経費			
支払報酬 ※6	238,222	256,000	△ 17,778
通信費	237,540	260,976	△ 23,436
荷造運賃	36,171	50,253	△ 14,082
水道光熱費	128,768	129,967	△ 1,199
旅費交通費	264,409	412,300	△ 147,891
消耗品費	109,950	67,268	42,682
会場費	111,660	111,120	540
家賃	1,304,000	1,296,000	8,000
租税公課	97,421	332,776	△ 235,355
リース料	419,077	411,072	8,005
支払手数料	65,344	183,610	△ 118,266
印刷費	18,520	3,550	14,970
その他 ※7	242,599	281,626	△ 39,027
その他経費計	3,273,681	3,796,518	△ 522,837
管理費計	8,171,490	8,628,706	△ 457,216
経常費用計	58,780,635	66,315,614	△ 7,534,979
当期経常増減額	△ 6,056,036	△ 3,425,781	△ 2,630,255
Ⅲ経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
Ⅳ経常外費用			
固定資産除取損	0	1	△ 1
寄付金	0	20,000	△ 20,000
経常外費用計	0	20,001	△ 20,001
当期正味財産増減額	△ 6,056,036	△ 3,445,782	△ 2,610,254
前期繰越正味財産額	68,637,679	72,083,461	△ 3,445,782
次期繰越正味財産額	62,581,643	68,637,679	△ 6,056,036

※1.ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト交付金事業に関わる受取助成金です。
 ※2.ライオンズクエスト認定講師、ワークショップのアンケート集計に対する謝金です。
 ※3.教材、書籍、パンフレット、年次報告書、名刺等の印刷費です。
 ※4.ライオンズクラブ国際財団に対するライオンズクエストプログラムのライセンス料です。
 ※5.会議費、修繕費、雑費が含まれます。
 ※6.会計監査報酬、労務経手続報酬、総会講演会謝金です。
 ※7.会議費、保険料、諸会費、修繕費、雑費が含まれます。

財務諸表に対する注記

①重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法 — 棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。
2. 固定資産の減価償却の方法 — 有形固定資産は法人税法の規定に基づいて定率法により直接償却を行っています。
3. 消費税等の会計処理 — 消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

②事業費の内訳

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、セミナーの開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。

広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

	ライフスキル教育事業	広報事業計	事業費計
(1)人件費			
給料手当	11,480,600	240,000	11,720,600
法定福利費	1,192,492	0	1,192,492
通勤費	472,921	0	472,921
人件費計	13,146,013	240,000	13,386,013
(2)その他経費			
謝金	11,881,614	0	11,881,614
通信費	1,160,916	35,122	1,196,038
荷造運賃	1,301,293	0	1,301,293
旅費交通費	8,917,818	0	8,917,818
消耗品費	324,097	0	324,097
会場費	506,443	0	506,443
家賃	1,304,000	0	1,304,000
リース料	419,077	0	419,077
支払手数料	696,051	770	696,821
印刷費	4,984,016	100,120	5,084,136
減価償却費	817,128	0	817,128
ライセンス料	1,493,370	0	1,493,370
外注費	2,778,945	211,900	2,990,845
その他	290,452	0	290,452
その他経費計	36,875,220	347,912	37,223,132
合計	50,021,233	587,912	50,609,145

③固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	増減	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
什器備品	621,890	△ 162,725	459,165	△ 459,162	3
ソフトウェア	0	8,171,280	8,171,280	△ 817,128	7,354,152
敷金	300,000	0	300,000	0	300,000
ライフスキル教育普及事業積立預金	17,000,000	△ 7,000,000	10,000,000	0	10,000,000
合計	17,921,890	1,008,555	18,930,445	△ 1,276,290	17,654,155

監査報告書



2020年度のライフスキル教育普及活動は、以下の5点に注力します。

1 地域・学校の課題・ニーズに合わせた普及活動のすすめ

- ▶ 地域・学校のさまざまな教育の課題・ニーズに対する取り組みの一環としてライオンズクエストプログラムを導入・実践していくことを提案し、そのための支援を行っていきます。
- ▶ 教員や青少年指導者を対象としたワークショップ(研修会)では、対象地域・参加者の要望(課題・ニーズ)を取り入れ、研修目的を明確にし、参加者の目的意識・参加意欲を高め、受講後の実践につなげていきます。

2 新しいワークショップ(研修会)開催形式の浸透

2019年7月から新しいワークショップ開催形式を導入しました。

次年度も、この新しい開催形式を推進していきます。地域・学校の課題・ニーズを取り入れた研修内容を含めて、開催地域の関係者へ浸透を図っていきます。

形式名称	日数	内容
基本編	1日	ライオンズクエストプログラムのワークショップに初めて参加する人を対象とした、プログラムを使用して授業を行うために必須の研修
実践編	1日	「基本編」の修了者や従来のワークショップ修了者を対象とした、プログラムの実践をさらに深めるための研修
基本編+実践編	2日	「基本編」と「実践編」を連続して開催する研修(従来の2日間ワークショップと同等の研修)

3 教材の開発・改訂と電子化

- ▶ 2019年7月から導入された新しいライオンズクエストプログラムの「日本語版」教材の開発と電子化を進めます。ワークショップの修了者は、より手軽に、いつでも、お持ちの端末(PCやタブレット・スマートフォン)で教材を閲覧できるようになります。
- ▶ 学校とは異なる子どもたちの「居場所」で活用できる使い易いライフスキル学習の教材を開発します。



4 認定講師の増員

ワークショップの開催時期が夏休み期間中に集中することや開催形式の多様化(新しい形式の導入、課題・ニーズに合わせた内容、対象の拡大)、認定講師チームの世代交代も見据えて、認定講師の増員を進めます。

5 学校外への「ライフスキル教育」導入

学校外の青少年活動の場(放課後活動、居場所など)への普及活動を進めていきます。

また、学校外でも活用できる資料集3巻を作成します。



2019年度会員 (2020年2月末日現在)

○個人:49名

大島 賢三 島田 佳宣 田上 敬子 田川 薫
谷 和実 塚本 平二 藤田 武司 松尾 信武
満島 章 百田 勝彦 山田 礼子

※上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。(敬称略、五十音順)

2019年度寄付者 (2020年2月末日現在)

○法人・団体

トヨタエルアンドエフ東京株式会社

○個人:5名

理事会 (2020年4月1日現在)

- 理事長 野村 彰男 公益財団法人日本国際連合協会 理事
公益財団法人人権教育啓発推進センター 評議員
- 理事 中雄 政幸 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム ファウンダー(前事務局長、L.)
栗田 収司 元日本ビクター株式会社取締役
西田 浩子 公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長
佐渡 涼子 ライオンズクエスト認定上級講師
北山 敏和 ライオンズクエスト認定講師
教育学/健康教育学講師
- 足達 靖彦 ライオンズクラブ国際協会335-C地区 名誉顧問・元地区ガバナー
学校法人明珠学園理事、京都翔英高等学校副校長
- 馬淵 英晃 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 事務局長兼務
ライオンズクエスト カントリーディレクター
- 名誉理事 守隨 武雄 パナソニック株式会社 客員
藤本 厚子 元幼稚園教諭

監事 山本 和夫 東京ライオンズクラブ元会長 公認会計士

(L.=ライオンズメンバー)
(就任時期順、五十音順)

ライオンズクエスト認定講師 (2020年4月1日現在)

岡松 佐知子 北山 敏和☆ 佐渡 涼子*☆ 篠田 康人 柴 咲子
寺本 之人 外川 澄子 中村 千恵子 原田 達明

(*=認定上級講師、☆=青少年育成支援フォーラム理事 五十音順)

講師プロフィール等は、Lions Questライフスキル教育プログラムのホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
<http://lionsquest-japan.org>

皆様のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会 (LCI)

世界中に4万8千を超えるクラブ、140万人以上の会員を有する世界最大の奉仕団体で、200を超える国・地域でメンバーは地域奉仕に取り組んでいます。ライオンズクラブの活動分野は、視力関係、地域奉仕活動、環境、災害救援など、多岐にわたり、ライオンズクエストプログラムの普及を含む青少年育成はその一つです。

○JIYDは、LQ実施団体として、ライオンズクラブによる普及活動をサポートするとともに、協同して普及活動に取り組んでいます。



ライオンズクラブ国際財団 (LCIF)

人類の奉仕に貢献することを目的に、LCIにより設立されました。2002年にライオンズクエストプログラムの著作権を取得し、同財団の青少年健全育成プログラムとして、世界各国のライオンズクラブによる普及活動を支援しています。

○JIYDは、2003年以降、LCIFより日本におけるライオンズクエスト実施団体として指定されています。



International Youth Foundation (IYF、国際青少年育成財団)

ライオンズクエストプログラムを開発したリック・リトルにより1990年に創設されました。青少年の置かれている状況と将来展望を改善すべく、世界各地の団体とパートナーシップ関係を結び、各地の青少年のニーズに合致した事業を見出し、広めています。

○JIYDは、1997年にIYFの日本事務局(IYF-Japan)として設置され、2002年にNPO法人化して以降、現在もGlobal Partner Networkのメンバーです。

公益財団法人 日本財団

日本財団の「子どもの貧困対策プロジェクト」で設置される「第三の居場所」へのライフスキル教育プログラムの導入に協力して取り組んでいます(2017年度以降)。またライフスキル教育普及活動の基盤整備の為、ワークショップ(研修会)講師の養成や電子教材配信システム構築に対しご支援をいただいています(2019年度)。



企業・団体・個人

JIYDの事務局運営や「ライフスキル教育」普及事業に対して、ご支援をいただいています。



VISION

すべての青少年が、右記にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

- 1 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
- 2 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
- 3 心身ともに健康な生活習慣
- 4 人のためになることをする機会
- 5 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MIS SION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

ライフスキル教育普及事業

ライオンズクエスト

○普及活動

- ワークショップ開催
- プログラム導入・実施支援
- セミナー開催
- 教材開発・改訂
- 評価事業
- 認定講師養成



教育行政
学校
教員

青少年活動指導者

子ども
青少年